

5月22日 「女性の人権を尊重する政治を！ 橋下発言に抗議する緊急院内集会」開催

橋下発言はあまりにとんでもない、目に余る、常々そう感じていた人々は山ほどいる。きっとそのうち取り返しのつかない暴論を吐いて自滅するから待っていればいい、という人もいたけれど、出たり引っ込んだり微妙に言葉使いをずらしてめりくり、一向にその気配はない。昨年、直接会って本人に生き証人の自分がガツンと話してわからせてやろうと市庁舎まで出かけたハルモニには、公務がない日だったからと肩透かしを食わせた。まるきり表面強気の弱虫行動だ。まだ即席勉強の時間が足りなかったのだろう。

そんな彼が、5月に来日の二人のハルモニとの面会を受け入れると表明した。

しかし不安と恐怖を押さえ込もうと得意の一夜漬け学習ですっかり自己正当化に援軍を得た思いの彼は、5月13日の記者会見で得意げに発言、以後連日、新聞テレビに登場し、「銃弾が雨嵐のごとく飛び交う中で命をかけて走っていく精神的にも高ぶっている猛者集団に、慰安が必要なのは当然」「性病蔓延の防止、軍の規律保持、慰安(これに機密洩洩防止が加わるのだが)、そういうことが軍隊で大事なことから世界中どこでも『慰安婦』制度を持っている」「女性たちを戦場に連れてくるのに、強制性はなかったということが第1次安倍内閣の閣議決定で明らかにされている」、さらには在沖司令官にあった際、もっと日本の風俗業を利用して、米軍兵士の性的エネルギーをきちんとコントロールしたらどうかと進言したことも自慢げに話している。ハルモニたちがご苦労されたことにはちゃんとねぎらわなくてははいけないし、謝らなくてははいけない部分は謝るという。彼は自分の発言のどこが間違っているというのだ、とまったく発言撤回など考えてもいない。

これらが報道されてからの女性たちの行動はすばやかった。怒りが一つになって5月22日、参議院会館で集会が開かれた。わずか数日の準備期間しかない状態で、しかも平日昼間。

どれくらいの参加者がと心配しながらだったけれど、賛同する団体は全国から235(あまりの殺到ぶりで漏れ落ちなども多くあったと思われる、ご容赦いただきたい)、参加者数は400人を越えた。集会発言は、戦争を遂行するためには、女性を性欲処理の道具として利用することもやむをえない、という考えのとんでもない誤り、過酷な日々を生き延び、今なおPTSDに苦しむ日本軍「慰安婦」被害女性たちの現在、今日も続く性暴力の被害者たちの苦しみを訴え、この発言が自治体の首長であり政党代表という公人の立場にあるものから発せられたという事実を重く訴えるものだった(集会アピール他は以下 <http://ajwrc.org/jp/modules/bulletin/index.php?page=article&storyid=799>)。

しかし、その後も西村眞悟議員による「韓国人」女性を侮辱する発言など、加害責任の否定と根深い差別意識にもとづく公人の人権否定発言は続いている。橋下発言について明確に批判しないという「従軍慰安婦に狭義の強制の証拠はない」と述べたり、「河野談話」の見直しを示唆するなど、「慰安婦」問題に関する日本政府の責任を否認してきた安倍晋三首相の責任も厳しく追及されなくてはならない。

来日した二人のハルモニは、24日に予定されていた大阪市庁舎での面会を拒否した。当然のことだ。役所側は、誰がどこに座るかという細かな指示を出し、さまざまな制限を示してきたという。これは明らかに橋下パフォーマンスの場としてとことんイメージづくりに利用しようとしていることを示す。日本語がよくわかるハルモニは、連日の臆面もない彼の行動を詳しく知るにつけ、「もう会いたくない、会って、どうなる」という。この言葉を、彼はどう受けとめるのだろう。

大阪では、抗議行動が続くが、警察の弾圧ぶりはすさまじい。これは明らかに仕組まれている。これにNO!を突きつけることができない事態など、絶対に許してはいけない。

(丹羽雅代/アジア女性資料センター・wam)

国に派遣される軍人や兵士たちは、「国のため」とか「自由のため」とかの抽象的な話じゃなくて、妻子や母や姉妹を「守る」ために頑張ろう、って自分を励ますんだろうし、妻と離れている「から」セックスできなくてとか、いずれにしろ「男だから」って、代わりの女を使って、それがフツーって思ってるんだから。戦時中も今も。選挙でああいう市長や都知事が圧勝するくらいの数の人が。このあいだやっと死んだ鉄の女のせ

憲法

りふ、「社会などというものは存在しない。あるのは個人と家族と国家だけだ」って、ほんとに言い得て妙だと思ってたけど、彼らはよくわかってるんだよね、「家族」が、一方で競争と敵対をあおられる孤独な個人を国家につなぎ止めるもっとも効果的な道具だってこと。そこには男女差が不可欠だってこと。今後も24条に気をつけよう。

(あ)

大衆に支援されたテント第一回裁判(口頭弁論)

国がテント撤去を求めた訴訟の口頭弁論が始まった。5月23日、朝から300人以上の人が東京地裁に駆けつけ、開廷前に地裁前抗議行動、開廷時に法廷前廊下に座り込み、開廷中に霞が関界隈をデモ行進、裁判後に満員の報告集会を実施した。裁判闘争を支援する大衆行動を実現、一部メディアに好意的な報道をさせることができた。

開廷前抗議行動：10時前にテントから歩いて地裁前に行くと、既にのぼりが立てられ数十人が立っていて更に続々と人が集まってくる。河合弁護士や福島からの女性がアピールの後、10時半頃には横断幕に続いて地裁に入場。東京新聞夕刊が「土地明け渡し訴訟の却下を！ 脱原発テントと命を守る裁判 経産省前テントひろば」と大書した横断幕のカラー写真を報道。

傍聴と座り込み行動：大半の参加者が地裁に入り抽選場に参加。そして抽選。経産省のMさんは貼りだされた当選番号を見て抽選券を捨てて帰っていく。くじ運悪いはずの私は当たり、でもデモ担当なので傍聴券は配布担当に渡す。長蛇の列で地裁構内のゲートを通して4階法廷に向かう。最後尾で4階に上がると沢山の人が廊下に座り込んでいる。開廷後20分過ぎまで静粛に座り込み最後に一言シュプレヒコールして退場、大法廷要求を裁判所に伝えた。

霞が関デモ：私は一足早く日比谷公園霞門に到着。既に警備警察が待ちかまえている。狭山裁判抗議集会に来た人たちが野音前に見える中、座り込みを終えた人たちでデモ隊列を組

みいそいとデモ出発。暖かい日差しを浴びてゆっくりと裁判所横を進み、左折して官庁街を歩く。テント前を通り過ぎて虎ノ門交差点に着いたのは12時、昼休みで沿道に出た沢山の人たちに「テントを守ろう」「国は訴訟を取り下げろ」「再稼働反対」と訴えた。西幸門前で解散。

報告集会：食事する時間なく弁護士会館に駆けつけて裁判報告会。定刻1時になると会場は一杯で床に座っての参加者も。熱気の中で、鎌田慧さんが「経産省前テントひろば応援団」の本日結成を伝え、国の土地明け渡し攻勢は原発をやっつけるチャンスだと力強いアピール。「脱原発テントといのちを守る裁判」大弁護団(90人)の団長河合弘之さんが超地震大国日本で原発を動かすことが間違いを繰り返す福島飯館村への想いを歌った。被告淵上太郎さんは「テントひろばを造らせたのは経産省である」と陳述したと報告。橋本あきさんと亀屋幸子さんが福島原発事故被災者として怒りと悲しみを訴えた。

*

テントひろばを支える多くの人々とともに裁判闘争と大衆闘争を闘っていく第一歩を歩み出した。裁判は7月22日、9月12日と続く。6月3日夜には明治大学リバティーホールで「脱原発テント裁判を考える講演会」を開催する。「土地明け渡し訴訟」取り下げを求める請願書への署名にも引き続きご協力を！

(木村雅英／経産省前テントひろば)

「6.2 つながろうフクシマ! さようなら原発集会」に集まろう

昨年の総選挙で政権復帰を果たした自民党は、「2030年代原発稼働ゼロ」を目指すとする民主党政権の脱原発政策を見直し、原発再稼働をめざし、インドやトルコなどへ「日の丸原発」の輸出を積極的に進めています。安倍政権は、原子力発電の延命を優先し、国民の命よりも原子力カムの利益を守ろうと躍起になっています。

一方で、福島原発事故は収束の目途さえつかない状況にあり、いま原発に大量に流れ込む地下水による汚染水の問題をかかえ、労働者の被曝問題や熟練労働者の確保など新たな問題が続出しています。さらに、3・11以後の余震も心配され、それによる新たな事態の拡大もいまだ予断を許しません。事故から2年を過ぎたいまでも、16万人とも言われる県民が、故郷を奪われ、生活や健康、就労などの不安を抱えたまま苦しい避難生活を余儀なくされています。

このような状況の中で、この7月には、原子力規制委員会が、原発(研究炉も)の新規制基準を示すことになっています。現在大飯原発2基が動いていますが、8月にも定期点検に入り停止することになり、昨年の5月5日の原発全号機停止＝原発0の状況が再度生まれようとしています。新基準の導入により秋季以後、原発再稼働への動きが一段と活発化することが予想されます。

さらに7月には参議院選挙が行われ、安倍政権が進める政策に新たな判断が下されようとしています。安倍政権が進める、改憲問題や沖縄基地問題、オスプレイ問題とともに、再稼働問題を含めた原発問題を選挙の争点にしていかなければなりません。現在、安倍政権が衆議院での多数と高支持率を背景に、強引に進める原発再稼働や憲法改悪に「NO」の声を強くあげなければなりません。

「6・2 つながろうフクシマ! さようなら原発集会」は、そのような現状を踏まえ、再稼働反対の機運を高め、参議院選挙で脱原発をひとつの争点に押し上げるべく脱原発の声を東京で上げようと取り組まれるものです。当日は「NO NUKES DAY」として「さようなら原発一千万署名」市民の会が呼びかける集会のほかにも首都圏反原発連合や原発をなくす全国連絡会も共同行動として同時にアクションを展開することになっています。福島原発事故から2年が過ぎ、その風化が始まっています。そのような流れを少しでも押しとどめ、あらたな政治争点とするためにも、この集会に結集をお願いいたします。

(井上年弘／さようなら原発1000万人アクション実行委員会)

(☞「集会・行動情報」欄)

事務局から～

●9期1号は6月12日発送予定です。●9期がスタートします。同封チラシをご覧ください。ぜひ、引き続きのご購読をお願いします。●事務局にはスタッフが常駐していません。ご連絡の際にはファクシミリ、お葉書が確実です。特に転居の際にはご連絡ください。

追加配備はもってのほか! NO! オスプレイ 6・6集会へ

オスプレイの沖縄配備に反対する首都圏ネットでは、6月6日に集会を準備しています。これは、今年夏に、普天間基地に更に12機を追加配備しようとしていることに対して、抗議の声を高く挙げ、追加配備を阻止し、オスプレイを撤去させるためです。

昨年9月、沖縄では、10万名以上の人々が参加して集会が開かれ、県民総意でオスプレイの配備に反対することを表明しました。

さらに、去る1月には、沖縄の全ての市町村長と議会議長、県会議員らによってオスプレイの配備撤回を求める建白書が提出されました。また全国で174の自治体がオスプレイの配備・訓練に反対して決議を上げています。

しかし日米両政府は、こうした声を全く無視し、10月1日、激しい抵抗の中、配備を強行しました。以降、運用に関する日米合意を全く無視し、病院、学校、市街地だろうが、夜間も、傍若無人に飛び回り、騒音、低周波振動、そして墜落の恐怖と危険を沖縄の住民に振りまいています。3月からは、岩国を拠点に、低空飛行訓練を開始し、さらに全国に拡大しようとしています。また、4月には、岩国を経由して韓国での米韓合同軍事演習に参加しています。オスプレイの配備は、米国のアジア戦略の一環に組み込まれ、朝鮮半島の緊張を高め

ています。

4月29日に日米の防衛相・国防長官会談で、今年夏にオスプレイの追加配備することを、合意しました。全くとんでもないことです。現在でも、反対する声を無視して、勝手に飛び回り、安寧な平和に暮らす権利と人権を侵害しているのに、12機もの追加配備は、沖縄の住民に一層の被害と危険を加えようとするものです。

オスプレイの追加配備は、県民総意で反対している沖縄の民意を愚弄するもので、民主主義を踏みにじるものです。

安倍政権は、辺野古の海の埋立申請を強行し、沖縄では屈辱の日であるサンフランシスコ条約が締結された4月28日に「主権回復の日」として政府主催の記念式典を強行しました。このことは、これからもアメリカに従属し、米軍基地を存続させ、沖縄に苦難と犠牲を強いようとするものです。オスプレイの追加配備もこの一環です。

私たちは、沖縄の人々と共に連帯し、オスプレイの7月追加配備を許さず、全国低空飛行訓練に反対し、オスプレイの沖縄配備を撤回させていきましょう。6・6集会に多くの皆さんが参加されることよう訴えます。

(尾沢孝司/オスプレイの沖縄配備に反対する首都圏ネットワーク)

(☞「集会・行動情報」欄)

6・22 映像学習会「スポーツと天皇」へご参加を!

●東京国体の開会式は…?

いよいよ9月28日の開会式まで4カ月を切った東京国体(スポーツ祭東京)。国体に天皇夫妻が登場するのは開会式と閉会式。味の素スタジアムでの式典は約50億円かけて行われるが、これが天皇を中心に行われる国体の最大の山場である。

彼らは式典の最初からいるわけではなく、「オープニングプログラム」といわれる子どもたちの歌やダンスの余興のあとに登場する。天皇が登場したところからが「式典」となる。

数年前から「ご負担軽減」のために「お言葉」はなし。この後「国歌儀礼」があり、選手宣誓とかもあり、「式典演技」という劇のようなものを見て、退席。ちなみに全体司会は松岡修造だが、これはどうでもいいだろう。

開会式における天皇の動線は文字通り分刻みで決められている。主催者の式典資料でも、天皇の存在感は圧倒的である。「お言葉」がないことは存在感を薄れさせるのだろうが、それでもこの式典が彼らのために存在していることは疑いない。

●戦後天皇制と国体の「共闘」

なぜ、天皇はスポーツにこだわるのだろうか? 戦後、一度解散した大日本体育協会は、日本体育協会(日体協)として再出発した。戦前の明治神宮国民体育大会にかわる、新たな国家スポーツイベントとして国民体育大会(国体)が始まる。第1回の京都大会(46年)には天皇は出席しなかった。第2回の石川大会(47年)に、「巡幸」中の裕仁天皇がサプライズ参加。以後、「天皇杯」が国体総合優勝杯となり、天皇の式典

参加は常態化する。

天皇を参加させて大会の権威づけをしたい日体協と、スポーツの動員力を天皇への親近感に利用したい天皇制。この両者が一致して、戦後天皇制のスポーツとの関係は出発した。

いやそれだけではない。47年中に早くも裕仁一家は、サッカー大会や都民大会にまで家族で出かけてスポーツ観戦をしている。やがて裕仁の息子は、「テニスコート」で妻を得るだろうし、孫家族はスキーウェアに身をつつむだろう。もちろん障害者スポーツとの関係も無視できない。障害者スポーツのオーソライズは天皇制との関係そのものといってもいい。

●6・22「スポーツと天皇」にご参加を!

まったく彼らは狡猾である。人々の宮為、努力、文化、歴史、そして身体そのものすらも、まとめて奪っていく。自らは農耕をしないのに、収穫された農作物を暴力的に奪っていく古い軍勢力とそれは似ている。まあそれが国家(天皇制)の起源なわけだが……。

そんなことを皆さんと考えたいと思う。6月22日(土)午後1時半~府中市中央文化センター(府中駅5分)にて、映像学習会「スポーツと天皇」を行う。1時間ばかりの皇室プロパガンダ映像を見てから、小倉利丸さんにその分析をいただき、さらに会場で議論を深めたい。ナショナリズムの現代的なあり方も話し合えれば、と思う。ぜひご参加ください!

(井上森/やってる場合か! スポーツ祭東京・実行委員会)

報告：憲法96条改悪に反対する院内集会

5月21日、参院議員会館で「立憲主義を破壊し、憲法改悪を容易にする96条改悪に反対する院内集会」が開催された。主催は、例年5月3日に日比谷公会堂で超党派の集会・パレードを開催している「5・3憲法集会実行委員会」。この日の集会は「96条先行改憲論」に対して、「9条改憲論者」を含めた反対の意思を明らかにし、「護憲」「改憲」の枠組みを超えた「立憲主義」擁護の意義を明らかにするために企画された。集会には115人が集まった。

高田健さんの司会で進められた集会では、まず国会議員から糸数慶子参院議員（無所属）、福島みずほ社民党党首・参院議員、井上哲士参院議員（共産党）、山内徳信参院議員（社民党）、笠井亮衆院議員（共産党）があいさつ。山口菊子豊島区議（憲法を愛する女性ネット）が主催者あいさつを行った後、「憲法96条改正論の問題点と狙い」と題するメインの報告を清水雅彦さん（日本体育大学准教授・憲法学）が行った。

清水さんは初めに、憲法とはもともと「国家権力制限規範」であり、人権規定よりも統治規定が多いのが通例であることを説明。憲法の最高法規性は98条の規定、99条の公務員の憲法擁護義務、さらにあらゆる法律、命令、規則などが憲法に適合するか否かを決定する権限を最高裁判所が持つ81条の「違憲審査制」によって担保されていることを明らかにした。そしてこの憲法が「人類普遍の原理」であることを明らかにした前文、基本的人権の永久不可侵性を宣言した11条

や97条によって根拠づけられていることなどから、憲法の基本原理に反する「改正」が不可能とする「憲法改正の限界」説について説明した。

さらに「現憲法は世界的に見ても改正しにくい憲法」という自民党などの主張があてはまらないことを明らかにするとともに、これまで住民投票（産廃施設、ダム、原発など）について「議会制民主主義」を口実に否定的だった自民党が、憲法国民投票には「国民の意思＝民主主義」をふりかざして実現を迫るという矛盾を指摘した。さらに「立憲主義と民主主義」という角度から、立憲主義は権力を縛るだけでなく憲法の基本原理に反する「多数派の暴走」、すなわち「民主主義の暴走」の可能性をも縛るものだという論点を明確にした。

清水さんは最後に、96条改憲論が「憲法改正に国民を慣れさせ、『決定できる民主主義』という口実で迅速な悪性を推進するためのものだ」と警鐘を乱打した。

集会では最後に、超党派の議員で新たに作られた「立憲フォーラム」の近藤昭一衆院議員、辻元清美衆院議員、そして吉田忠智参院議員（社民党）からも連帯の発言を受けた。

96条の改正を突破口に9条を含む現憲法の全面的改悪に踏み込もうとしている安倍政権の戦略は、改憲派もふくめた「96条改正反対」の声の高まりで揺らぎは始めている。しかし油断することはできない。改憲派を追いつめる多様な運動の展開を。
（事務局／国富建治）

憲法を読む

『いま、「憲法改正」をどう考えるか』

樋口陽一 著
岩波書店
1500円＋税

任期中に「改憲」を公言していた天皇主義右翼の安倍晋三政権が、民主党への政権交代への幻滅感をバネに、再生してしまうといった、悪夢のような現状。この危機的な状況に抗して刊行された護憲派憲法学者の代表的人物の一人樋口用地の最新刊、タイトルもズバリの『いま、「憲法改正」をどう考えているのか』を紹介する。

サブタイトルが「『戦後日本』を『保守』することの意味」であることによく示されているように、いま「護憲派」であることを自認している著者は、「護憲論」がいまや「戦後日本」をこそ「保守」しなければならない「保守派」の主張であり、戦後革新（進歩）派の「保守改憲」派と対決する主張というかつての政治的性格を、まったく失ってしまっていること、この状況のドラスティックな変化に、十分自覚的である。いや、この深化される危機的状況の内側を深くえぐることによって、力ある反「改憲」の論理と行動がうまれるはずだという著者の姿勢で本書は一貫しており、その点が魅力的である。

あわてて書いておくが、私は、「『象徴』（1条）としての天皇が皇后とともに被災者を励まし、救援に力を尽くす人びとをねぎらう、その存在のたしかさ」と平然と象徴天皇の政治活動を肯定的に論ずる、著者のような「護憲」派とは政治的スタンスを共有できる人間ではない。しかし、その点はその点として、安倍（自民党）改憲案が「人権」という普遍的（世界的）理念を支える「個人」の思想への体系的攻撃である点をこそ問題にする（立憲主義破壊のトンデモないものと全面「改正」

の全体的性格をキチンと整理してみせる）著者の基本視座は、十分に説得的である。

「何より大きな論点として、13条の『個人』は『天賦人権説』に基づく規定振りを全面的に見直し、一環として消える。自分の気持ち、自分の考えで動く連帯は、日本社会のなかでの『個人』の発見ではなかったのか。『原発やめよう』の市民の集まりのこれほどの拡がり、明治以来の先人たちが悩んできた『個人の不在』、『大勢順応』という日本社会の気質に新しい風を吹きこんでいる。その風を前むきに吹き返してよいのか」。

この主張によく示されているように、著者の戦後憲法の基本（普遍）理念が、支配者の愚かな政策に抗う人びとの運動のなかにこそ、いま息づいていることに注目すべしという「現実主義」的主張に、私たちもよく耳を傾けるべきだと思うのだ。「九条護憲の力は、『沖縄』（反基地）と『福島』（反あるいは非・核エネルギー）を支え続けている」ことは、まちがいのない事実なのだから。

本書は戦後の「憲法史」を歴史的に検証し、戦後の（平和・人権・民主主義）憲法に流れる「西洋起源の立憲主義の普遍性」の意味をこそ再確認し、安倍（自民党）改憲プランは、そういった「普通の国」（立憲主義）を破壊し、「人類普遍の原理」をしりぞける。戦後の保守的政治家たちすらが、それなりに共有したものからはずれる、トンデモないしろものである事実を、すこぶる明確に示している。（天野恵一／事務局）

反改憲ニュースクリップ

2013年5月8日～5月24日

橋下徹「慰安婦制度は必要だった」

【5月9日】〈衆院憲法審議会〉衆院憲法審議会で96条について初討議。改憲発議要件の緩和について自民党、日本維新の会、みんなの党が賛成を表明。民主党は先行改正に反対、公明党は先行改正に慎重。共産、生活両党は改正そのものに反対した。みんなの党の畠中光成議員は「目的が9条改正ならば明確に国民に示すべきだ。後出しジャンケンでは許されない」とも指摘。**〈96条〉**自民党の鴻池祥肇元防災担当相、麻生派の総会で「96条を盾にして参院選を戦うのは不利」と発言。**〈生活の党〉**生活の党が「憲法についての考え方」を発表。「国民主権、基本的人権の尊重、平和主義、国際協調という日本国憲法の四大原則は、現在においても守るべき普遍的価値であり、引き続き堅持する」とし、96条改憲にも反対の姿勢を明確にした。他方、国連PKOに自衛隊が参加する根拠となる規定、内閣による緊急事態宣言の根拠となる規定、その宣言を受けた天皇による国事行為についての規定を追加するよう主張。**〈9条〉**日本維新の会の橋下徹共同代表が、9条改憲について、国民の意向を知るための予備的国民投票を行うべきとの考えを示す。

【5月10日】〈96条〉安倍晋三首相が96条改憲について「無理にやろうとすれば元も子もない。国民的議論が高まっているかといえば、そうではない」とフジテレビの番組で発言。他方、みんなの党の渡辺喜美代表が、96条先行改正について「政治改革、選挙制度改革、公務員制度改革が先だ。当然のことをやらないで憲法改正ができるわけがない」と発言。自民党では憲法改正推進本部の会合が開かれ、「国民の理解が得られる状況を作っていくのが必要だ。96条改正が先に進むのは適切ではない」「何を改憲するのかとセットで論じるべきだ」などの意見が出る。

【5月11日】〈96条〉自民党の石破茂幹事長が、96条の見直しと環境権の追加をセットで実現する案について、懐疑的な考えを示す。

【5月12日】〈維新の会〉維新の会の橋下共同代表が、自民党の改憲論議に関して「自民党の憲法観は危険だ。公権力を強く出し過ぎており、怖い」と批判。**〈96条〉**民主党の前原誠司元外相が、96条先行改正について「どこを改正するか示されないで手続き条項だけハードルを低くするのは気持ち悪い」と発言。

【5月13日】〈96条〉96条改正を目指す超党派議連が国会内で1年5か月ぶりの総会を開く。自民、民主、維新、みんなの国会議員約100人が出席。他方、日本ジャーナリスト会議が「96条改憲に反対し、9条をはじめとする憲法の本質と原理を守るために取り組む」とする声明を発表。**〈経団連〉**日本経団連の米倉弘昌会長が、改憲に関して「(改正する)タイミングは別として、国としてあってしかるべきではないか」と発言。**〈慰安婦〉**維新の会の橋下共同代表が、旧日本軍の慰安婦制度について「軍の規律を維持するためには、当時は必要だった」と発言。さらに、米軍普天間飛行場を訪問した際、

「風俗業を活用してほしい」と提案していたことも自ら明らかに。

【5月14日】〈民主党〉民主党が2005年に党憲法調査会がまとめた「憲法提言」を基に、条文化の検討に入ったことが判明。夏の参院選前のとりまとめを目指す、党内には条文化への強い反対論も残る。**〈橋下発言〉**慰安婦に関する橋下発言について、維新の会の石原慎太郎共同代表が、「軍と買春はつきもので、歴史の原理みたいなもの。(買春は)好ましいものではないが、橋下氏は基本的に間違ったことを言っていない」と擁護。同党の松井一郎幹事長(大阪府知事)も「問題意識を建前論でなく本音でぶつけていく中での発言だった。慰安所は現実にあったわけで必要とされていた」と発言。在日米軍の風俗業活用については「合法的な店はいっぱいあるので、軍関係者にも楽しんでいただけたらいいんじゃないか」と述べる。

【5月15日】〈原発政策〉原子力規制委員会が、高速増殖原型炉もんじゅで約1万個の機器の点検漏れがあったとして、運転再開に向けた準備を見合わせるよう原子力研究開発機構に命じることを決定。

【5月16日】〈衆院憲法審査会〉衆議院憲法審査会が憲法の前文、第10章(最高法規)、第11章(補則)について討議。自民党の保岡興治議員が、前文について、「我が国の歴史、伝統、文化に根差した固有の価値を踏まえるべきだ」と述べたのに対し、民主党の三日月大造議員は「歴史、伝統、文化とは何か。(これを前文に入れると)特定の人の価値を押しつけることにならないか」と批判。第10章については、自民党を除く全党が、国民に憲法尊重擁護義務を課す考えに反対を表明。**〈公明党〉**公明党が、現行憲法に関して、硬性憲法としての性質を維持すべきだと夏の参院選公約に明記する方針を固める。**〈橋下発言〉**米國務省のサキ報道官が、慰安婦に関する橋下発言について「言語道断で侮辱的なものだ」と非難。

【5月17日】〈九条の会〉「九条の会」がアピール文を発表。「安倍首相の真のねらいは、96条改憲を突破口に、9条改憲につきすすむことにあります」と指摘。**〈ヘイトスピーチ〉**西村真悟衆院議員が、党代議士会で「日本には韓国人の売春婦がうようよい」「慰安婦がセックス・スレーブ(性奴隷)に転換されている。反撃に転じた方がいい。繁華街で『お前、韓国人、慰安婦だ』とか言ってやったらよろしい」と差別発言。**〈新防衛大綱〉**自民党の国防部会・安全保障調査会が新しい「防衛計画の大綱」策定に向けた提言の骨子案を提示。「ミサイルの脅威に対する抑止力を強化する観点から、我が国独自の打撃力の保持について検討を開始し、速やかに結論を得る」などとした。

【5月20日】〈世論調査〉毎日新聞が行った全国世論調査で、96条改憲への反対が4月の前回調査より6ポイント増えて52%となり、賛成の41%を上回る。自民、維新両党が改憲に向けて連立政権を組むことについては、賛成32%、反対58%。

【5月22日】〈原発政策〉原子力規制委員会が、日本原子力発電敦賀原発2号機の直下に活断層があると認定。

【5月23日】〈衆院憲法審査会〉衆議院憲法審査会が緊急事態規定に関する討議を行う。自民、民主、維新、みんな、生活各党が新設に前向き、共産は反対、公明は懸念を示した。

【5月24日】〈橋下発言〉維新の会の中山成彬代議士会会長が、この日予定されていた橋下との面会予定を元慰安婦2人がキャンセルしたことに関し、「橋下氏に強制連行の中身を鋭く追及されるのを怖れたか? 化けの皮が剥がれるところだったのに残念」とツイッターで発言。

私も一言 174

鈴木誠 (れんが書房新社)

この間、安倍晋三の主唱する96条改憲問題と橋下徹の「従軍慰安婦」発言がメディアの話題になっている。両者の主張はいずれも、すぐにバレるような真ッ赤なウソを含むトンデモ発言というべきシロモノだ。今はこの程度(以下)の「政治家」は一杯いて、珍しくもないが。

マスコミはそのトンデモぶりすらまともに指摘、批判できていないから、立憲主義の基本も知らない(あるいは無視する)政治家や「三百代言」の見本というべき弁護士は、国民をバカにして暴言を垂れ流して恥じるどころなしである。それを「ホンネ主義」とかといって、追従する風潮も蔓延してい

る。細かな失態はチェックできても大嘘はフリーパスというマスコミのていたらくは、3・11以降さらに昂進して頽落ぶりが目に余る。

改憲問題では、安倍は日本の改憲手続が「諸外国に比して格段に厳しい」というウソを公言しているが、その発言の根拠を質し提示させたメディアがあったのか。自民党の改憲草案は至るところに「公益及び公の秩序」という文言を付けて国民の権利を抑制し、トドメに第102条で「全て国民は、この憲法を尊重しなければならない」と立憲主義を否定する条文まで設けている。この明らかな反立憲主義をきちんと批判したマスコミは?

囲み取材での橋下の問題発言は、明らかに橋下自身が「従軍慰安婦」は必要と考えているものであるにもかかわらず、マスコミはその後の詭弁とスリカエばかりの「釈明」を切り返すこともなしにタレ流させ、マスコミは広報メディアにすぎないことを、改めて天下に晒している。まるで「言論の自由」などお題目以上には必要ないかのようだ。

ダメな政治家が問題なのは当然だが、マスコミの頽落ぶりはもっとヤバイ事態ではないだろうか。

集会・行動情報 6/1 ~ 6/9

▶ **6/1 (土) 国境なきアフリカを! シンポジウム&デモ** ◆参加費500円 ◆ゲスト: チャイナ・ングバネ(南アフリカ: クワズルー・ナタール大学市民社会センター)、シンポジスト: 稲葉奈々子、近藤昇、小倉利丸 ◆13:00 ◆終了後デモ ◆横浜市従会館(JR・市営地下鉄桜木町駅、京急日ノ出町駅下車) ◆主催: 横浜でTICADを考える会

■ **脱原発こそ未来を拓く! —いま、被曝から子どもを守ろう! 6・1集会** ◆参加費: 1000円 ◆講演: 高橋哲哉(東京大学大学院教授) ◆パネルディスカッション: 山田真、仲里歌織、菅野久美子、鹿日久美、二瓶和子 ◆日本教育会館(東京メトロ、都営地下鉄神保町駅下車) ◆主催: 脱原発をめざす女たちの会

■ **ストップ! 改憲6・1集会** ◆資料代500円 ◆講演: 大内裕和(中京大教授)「改憲と教育再生実行会議の危険性」 ◆闘う現場から: 石橋新一、白石孝 ◆18:00開場 ◆杉並区産業商工会館(JR中央線阿佐ヶ谷駅南口、東京メトロ丸の内線南阿佐ヶ谷駅下車) ◆主催: 同集会実行委員会

▶ **6/2 (日) No Nukes DAY同時アクション つなごうフクシマ! さようなら原発集会** ◆発言: 大江健三郎、落合恵子、鎌田慧、澤地久枝、福島から、原発現地から ◆12:30~集会 ◆14:15~パレード出発 ◆芝公園23号地(都営地下鉄三田線御成門駅下車) ◆主催: さようなら原発1000万人アクション市民の会

■ **原発ゼロをめざす中央集会** ◆11:00 ◆明治公園(JR総武線千駄ヶ谷駅下車) ◆主催: 原発をなくす全国連絡会

■ **0602反原発☆国会大包囲** ◆16:00~ ◆国会周辺 ◆首都圏反原発連合

▶ **6/3 (月) 脱原発テント裁判を考える講演会** ◆資料代500円 ◆講演: 落合恵子、鎌田慧、中島哲彦、広瀬隆、ミサオ・レッドウルフ、河合弘之(予定) ◆18:00開場 ◆明治大学リバティーホール(JR中央線・東京メトロ丸の内線御

茶ノ水駅下車) ◆主催: 現代史研究会、共催: 経産省前テントひろば応援団

▶ **6/4 (火) シンポジウム 原発事故も隠される! 「秘密保全法&盗聴法」の危険な社会** ◆資料代500円 ◆シンポジスト: 海渡雄一(弁護士)、田島泰彦(上智大教授)、村井利邦(一橋大名誉教授)、発言: 米倉外昭、高田健、宮崎俊郎 ◆18:30 ◆渋谷勤労福祉会館第一洋室(JR・東京メトロ渋谷駅下車) ◆主催: 盗聴法廃止ネット

▶ **6/6 (木) NO! オスプレイ6・6集会=追加配備はもってのほか!** ◆参加費500円 ◆講演: 桃原功(宜野湾市議) ◆開場18:30 ◆文京区民センター3A(都営地下鉄春日駅下車) ◆主催: オスプレイの配備に反対する首都圏ネットワーク

▶ **6/8 (土) 改憲なんて冗談じゃない! 市民デモ~安倍のつくる未来はいらない~** ◆17:00集合 ◆新宿駅東口アルタ前広場 ◆呼びかけ: 安倍のつくる未来はいらない人々

■ **安倍政権のねらうもの 集団的自衛権の行使ってなあに** ◆資料代500円 ◆講師: 浅井基文 ◆13:00開場 ◆渋谷区勤労福祉会館(JR・東京メトロ渋谷駅下車) ◆主催: ふえみん婦人民主クラブ

■ **原発再稼働反対 経産省前テントひろばを守ろうデモ in 千葉** ◆15:00集合、15:30デモ出発 ◆千葉中央公園 ◆原発さよなら千葉

▶ **6/9 (日) 米軍横田基地反対集会・デモ オスプレイ反対! 基地撤去で結集しよう** ◆14:00集合、15:00デモ ◆福生公園(JR青梅線牛浜駅下車) ◆主催: 同実行委員会(全労協東京協議会、全労協全国一般東京労組、郵政産業労働者ユニオン、沖縄・一坪反戦地主会関東ブロックなど)